



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/27 (月)	+ 400	▲ 6,500	▲ 6,100	国庫短期証券発行償還 (3M) 流動性供給	CP等買入 ▲ 200 社債等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 27,200		日: 日銀金融研究所主催の国際コンファランスで植田総裁が開会あいさつ、内田副総裁が基調講演 米: 休場 (メモリアルデー)
5/28 (火)	+ 1,000	+ 6,000	+ 7,000				日: 基調的なインフレ率を捕捉するための指標 (日銀)
5/29 (水)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行 (10年CTB)	共通担保 ▲ 7,000		日: 日銀の安達審議委員、熊本県金融経済懇談会で講演 米: 地区連銀経済報告 (ページブック)
5/30 (木)	+ 400	+ 7,000	+ 7,400				米: GDP (1Q) 米: 新規失業保険申請件数 (25日終了週)
5/31 (金)	+ 300	▲ 12,300	▲ 12,000				日: 鉱工業生産 (4月) 日: 小売売上高 (4月) 欧: ユーロ圏CPI (5月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、国債買入オペ等により、前営業日対比1兆9,200億円増加の551兆7,200億円から始まった。その後、国債発行、国債買入オペ等の要因により増減し、24日は、553兆7,000億円 (速報) で越週となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後も取り手の調達意欲は底堅く、週末3日積みの日曜日には同金利が0.078%を記録し、マイナス金利解除後最も高い水準となった。

ターム物は1W~3M物を中心に0.12%~0.20%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、28日に基調的なインフレ率を捕捉するための指標 (日銀) の公表、海外では29日に米地区連銀経済報告 (ページブック) の公表、30日に米GDP (1Q) の公表などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.078
1M	0.07 ~ 0.20
2M	0.15 ~ 0.30
3M	0.15 ~ 0.30
6M	0.20 ~ 0.30

## &lt;レポ&gt;

足許GC取引は週初+0.08%近辺から始まったが、21日には+0.05%まで低下した。翌22日の取引は後場に0.08%まで上昇するも、輪番オペがオファーされた23日の取引は再び+0.05%近辺まで低下した。3M短国の発行があった週末は+0.08%近辺が取引の中心となった。

SC取引は2年438~460回債、5年149~167回債、10年350~374回債、20年180~187回債、30年65~82回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額の約7,900億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆716億円から5月23日時点で23兆4,209億円に増加した。発行市場は鉄鋼業、小売業、化学、石油製品、小売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で0.1%台前半から0.25%近辺での出会いであった。

来週の償還額は、約1兆6,500億円となっている。発行市場は月末に企業の調達ニーズが高まり、活況なマーケットになると見込まれる。発行レートは、引き続き0.1%台前半からの出会いと予想する。28日にCP等買入れオペが3,000億円でオファーされる予定となっている。

## &lt;TDB&gt;

24日の3M (1233回債) の入札は、最高落札利回り0.0421% (前回債0.0481%)、平均落札利回り0.0401% (前回債0.0413%) となった。

来週の入札は、31日に3Mが予定されている。